

カトリック

広島教区報

No. 100

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42
広島司教区内
TEL (082) 221-6017

ご復活メッセージ・挨拶
教区の動き・津和野列聖運動・予備神学校
教区報一〇〇号記念特集・三末名誉司教対談
世界平和記念聖堂関連・J-CAR M
地区・海峡からの風・施設・青少年・ひと粒

一面
二〜四面
五〜八面
九面
十〜十二面

主イエス・キリストは復活された！ アレレヤ！

広島教区管理者 肥塚 倅司 神父

しかし、復活の主は十字架に磔にされた主です。

十字架の上で、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」と孤独と絶望のうちに息を引き取られたイエスの姿を見て、百人隊長は「本当に、この人は神の子だった」と信仰告白したのです。(マルコ十五・三十三〜三十九)

パウロは、福音宣教の中心のメッセージを「わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えていきます」と確信をもって宣言



肥塚 倅司 神父

主のご復活おめでとうございます

教区管理者 肥塚 倅司 神父
名誉司教 三末 篤実 司教
司教総代理 斎藤 眞仁 神父

教区モテラントール 肥塚 倅司 神父
教区副モテラントール(会計) 原田 豊己 神父
教区本部事務局 服部 大介 神父
平和の使徒推進本部 肥塚 倅司 神父
広島司教館 肥塚 倅司 神父

(さいたま教区出向) 澤野 耕司 神父
福田 誠二 神父
猪口 大記 神父
(ローマ留学) 猪口 大記 神父
ソウル大神学院 尹 兌榮 助祭
広島地区 (地区長) ヴィタリ 神父
鞆町・東広島・三篠・翠町・向原教会共同宣 倉吉 教会
教司牧チーム ヴィタリ 神父
アルベルト 神父
豊田 尚臣 神父
肥塚 倅司 神父
金 起煥 神父
大西 勇史 助祭
斎藤 眞仁 神父
加藤 信也 神父
バラ 神父
金 起煥 神父
呉 教会 下関 フロック
廿日市教会 アンリ 神父
三次教会 アルバレス 神父
三原教会 アルナルド 神父
尾道教会 服部 大介 神父
福山教会 瀧井 英昭 神父
松江教会 フレデリック 神父
岡山・鳥取地区 (地区長) 萩 喜代治 神父
岡山・岡山南教会 西江 和司 神父
リカルド 神父

倉敷地域共同宣教司牧チーム 野中 泉 神父
倉敷・玉島・水島教会 バルト 神父
玉野教会 トウアン 神父
津山教会 ワーレ 神父
倉吉教会 関 亮一 神父
鳥取教会 野崎 一夫 神父
米子教会 萩 喜代治 神父
山口・島根地区 (地区長) 李 相源 神父
山口 フロック 李 相源 神父
山口 教会 李 相源 神父
山根 敏身 神父
出雲 教会 益田 教会
津和野 教会 康生 修道院

防府 教会 小崎 次郎 神父
萩 教会 恩地 誠 神父
長束 修道院 長束 修道院
長府 教会 アルテイリョ 神父
彦島 百瀬 文晃 神父
下関労働教育センター 林 尚志 神父
宇部・小野田 フロック 宇部 宇部 神父

細江 百瀬 文晃 神父
細江 ボーニー 神父
長府 教会 アルテイリョ 神父
彦島 百瀬 文晃 神父
下関労働教育センター 林 尚志 神父
宇部・小野田 フロック 宇部 宇部 神父

片柳 弘史 神父
三喜田 虎太郎 神父
池尻 廣幸 神父
清水 弘 神父

愛徳 修道士会 愛徳 修道士会
ヘンレックス 修道士 牧田 眞一 修道士
ホントレー 修道士

愛徳 修道士会 愛徳 修道士会
ヘンレックス 修道士 牧田 眞一 修道士
ホントレー 修道士

「苦しみや困難がやってくるのは、あなたが誠実に生きていることの証しです」(マザー・テレサ)

教区の動き

平和の使徒推進本部

【二〇一四年度（第四回）本年度最後の平和の使徒推進本部会議開催】

司教座空位の状況の中、教区として継続して行われる活動について確認するため、去る二月十四日、本年度最後の第四回平和の使徒推進本部会議（以下、推進本部会議）が、広島カトリック会館で開催された。本部長の肥塚神父を中心に、各地区代表信徒、推進本部事務局員の十人が出席した。

《津和野乙女峠殉教者列聖運動》

広島教区がこの列聖運動を始めた意図やめざしていることの理解と協力を願って、広島（一月十二日）と長崎（三月八日）でシンポジウム（長崎シンポジウムの詳細は、三ページ）を開催した。今後、六月の司教総会議に向けて列聖のための手続きを進めていく予定。広島シンポジウムは、エ



広島シンポジウム舞台の様子。右、津和野乙女峠にある殉教者レリーフのレプリカ。左、乙女峠聖堂内部の聖画、拷問の図

また、津和野乙女峠の殉教者記念碑レリーフのレプリカの小教区巡回については、予定通り一月十二日（広島シンポジウム）から『西回り』『東回り』の二つのルートで各小教区を巡回中。五月三日（乙女峠祭）まで、巡回後二つのレプリカは、津和野教会と浦上キリシタン資料館で保存する。

《召命促進》

第三回の予備神学校が去る二月十四日、十五日に開



左から、肥塚神父、平林神父、前田大司教、高見大司教、野口さん

教区）と平林冬樹神父（イエズス会）を始め、長崎大司教区の高見三明大司教、そして浦上教会信徒の野口勝利さんの四名のシンポジストによるお話を聞かせてもらった。前田大司教と平林神父からは、広島シンポジウムに引き続いて、列聖運動を始めるといった経緯と現代における列聖の意味の説明があり、高見大司教は、「アジアの人々にキリストの信仰を証しすることが今求められていること、殉教者の列聖、列福の運動することは時宜に

適っており、津和野の列聖運動はちょうど良いタイミングであったこと。そして潜伏しながら殉教するほどまでの信仰を養い育ててい

校された。（詳細は三ページ）

司祭育成（具体的には、前田大司教が掲げられた「十年間で十人の司祭叙階を目指す」）に關し、予備神学校の開校を中心に取り組んでいるが、司祭、信徒の意識や各小教区、地区の意識差が懸念されるため、積極的なPRが必要との意見がある。

《青少年育成》

青少年情報センターの必要性、意義について話し合う必要性があるとの意見がある。

《教区共通カテキズム》

前田大司教の意向である、この活動を通して信仰（信仰からの奉仕、信仰への奉仕）のレベルアップを図るひとつの手段として推進された。

昨年末に開催された教区宣教司牧連絡会で、この活動のための専門委員会を立ち上げることが了承され、現在、委員（司祭三名、信徒三名）を選出中。まずは、第一回の委員会を開催し、今後、どのように進めて行くか話し合っていく

た方々のことをもう一度思い起こし、学び、今の私たちにぜひとも取り入れていきたい。」と話された。また野口さんからは、「乙女峠を訪れて、自分たちの先祖の方々のために全国とどこに集まって、祈りをささげてください。浦上での動きが活発でないことを寂しく思ったこと。さらに浦上としては自分たちの先祖のこととして、信仰の先人を讃えることを大切にして祈ることを特に進めて行きたい」と話され、浦上でもこの列聖運動に少しでも興味を持って関わってくれる良い機会になったように感じました。この運動のためにお願いしていた、イエスのカリタス修道女会の前田智晶シスターによる「光りの道へ」という歌の披露もシンポジウムに先立って行われ、最後の祈りとしてみんなで一緒に歌って閉会となった。

広島教区列聖委員会としては、二つのシンポジウムを通してこれらの列聖運動

予定。

《『平和年』の取り組み》

二〇一四年八月六日（二〇一五年八月六日）教区レベルの取り組みとして、平和年、被爆後七十年（二〇一五年八月六日）について、教区民に意識してもらおうため、

平和の使徒となろう



平和の使徒推進本部

- ①毎月六日を「平和の日」とする。
- ②「平和アピール」など、平和に関する学習をする。
- ③広島（被爆）だけではなく、それぞれの住む町（小教区の周り）で戦争と平和に関する学習をする。

地区レベルの取り組みについては、各地区独自で平和に関する行事を行っている。

《『奉獻生活の年』について》

「奉獻生活の年」二〇一四年十一月三十日開幕、二〇一六年二月二日閉幕。広島教区としての具体的な取り組みはこれから。

《二〇一五年度の広島教区活動について》

『家庭へのチャレンジ』の推進について、ポスター、カードを作成予定。「わたしは○○します。」を浸透させるため、各自の現実を踏まえ、「できることに挑戦する」「家族のために祈る」「教区のために家族で祈る」ことをキーワードにしたポスターやカードで浸透を図る予定。

以上のようなことが推進本部会議の中で確認された。意見や要望など、平和の使徒推進本部までどうぞ。

の盛り上がりを示しながら、日本の司教団への同意を目指していく予定である。

第三回予備神学校

後藤正史神父

「親の声かけときょうだいのきずなく教区予備神学校の原動力」

去る二月、今年度から始まった教区予備神学校の第三回目が開催されました。

まず、スタッフの皆さんに感謝したい。教材、プログラム準備のみならず、運営にも相当の熱意と努力が注ぎ込まれています。それだけに、いまだに教会の中で認知度や理解度が低いのはなによりゆえなのか、と一言言いたくなります。それはさておき、三回を通して見



参加者スタッフ全員で作成した神への賛美を表す床絵を囲んで

えてきたことは、人のつながりこそ、予備神学校を支える基本だという至極当たり前の事実です。前回（九月）も今回も、参加した子どもの半数以上はきょうだい参加でした。親が子どもに参加を後押しし、きょうだい参加しているのです。奇しくも広島教区の宣教司牧チームは「家庭へのチャレンジ」です。家庭こそ、子どもたちの信仰教育のゆりかごだということが自ずと示されています。予備神学校に参加した子どもたちは、それぞれの所属する教会を超えたつながり、司祭とのつながり、神様とのつながりを深めます。通常の教室形式ではない、身体感覚や動きを中心とした退屈するひまがない、わくわく感の中で、無理なく自然に教会の教え、聖書の教えを学びます。遠くからでも参加しやすいよう、交通費の大幅補助をしております。一度、参加してみてください。第四回は四月二十五日（土）、二十六日（日）に開催します。

長崎シンポジウム

長崎カトリックセンター

一月に行われた広島シンポジウムに続いて、三月八日（日）の午後四時から「津和野の殉教者の列聖をめざして」シンポジウムが、長崎カトリックセンター大ホールで行われた。日本の信徒発見百五十周年記念行事の一環として長崎大司教区も取り組んでくださり、浦上教会近くの浦上キリシタン資料館で、「津和野に流された浦上キリシタン」の特別展も同時開催されている。



浦上キリシタン資料館の内部の様子、津和野教会の貴重な資料なども展示されている

シンポジウムには約三百名の方々が集まってくださり、広島教区列聖委員会の前田万葉大司教（大阪大司



教区報発行の提案をされた当時を振り返ってお話をされた三末名譽司教

1986~2015

広島教区報一〇〇号記念 三末名譽司教を囲んで

座談会

発行して欲しかったけれど、それに携わる方の苦勞を思うと、年に二、三回、出せば良いと思っていました。五つの県の教区民に、『教区でこうしたことをしている』と紹介したかった。これが教区報を発刊する最初の目的。あとは、皆さんが頑張ってくれまし

司教(当時、日本カトリック司教協議会広報委員長)、続いて濱尾文郎枢機卿(当時、カトリック中央協議会会長、横浜教区長。その当時の研修会の思い出として、鹿児島県の指宿であったとき、温泉と大宴会で驚かされたことが思い出されます。』

司教「ほかの教区報をご覧になって、どう思いますか?」
司教「色々なコーナーを設けていると、その内容に関心が持てて良いと感じます。但し、同じ人がよく記事を書いているような状況や、コーナーのような内容が多すぎると、あまり感心しませんね。」

司教「東京教区と名古屋教区は、最後のページが『お知らせ』になっていますね。」
司教「教区報が月一回の発行であれば、『お知らせ』も良いでしょう。」
司教「教会には、広報委員はいるの?」
司教「広報委員がいる教会はあります。但し、広島地区は広報委員会を行っていません。教区報

本誌の発刊百号を記念し、発刊当時の教区長であった三末名譽司教、発行責任者であった齋藤神父を囲み、現在の発行責任者である服部神父、編集委員と共に、食事しながら「座談会」と称して発刊当時の想い、苦勞、エピソードなどについて尋ねてみました。

司教「私が広島に着任したとき、教区全体の広報誌がありませんでした。地区報(地区の広報誌)はありましたが、教区全体の出来事や活動を知ることの欲しかった。本当は毎月、

司教「私が東京にいるところは、色々な場面で右翼的な関係者や記者の方との接し方について意識していたので、大きな失敗はなかったよ。」(八面へ)



教区報発刊当時の様子を語る、齋藤神父

司教「私が東京にいるところは、色々な場面で右翼的な関係者や記者の方との接し方について意識していたので、大きな失敗はなかったよ。」(八面へ)

司祭・修道者のダイヤ モンド・金・銀祝

- ◆ダイヤモンド祝60周年◆
 - 《援助修道会》
 - 楠木修道院
 - Sr.粟本晃子 一九五五年
 - 九月八日 初請願
 - 《援助マリア会》
 - 福山修道院
 - Sr.塩谷洋子 一九五五年
 - 二月十一日 志願式
 - Sr.北垣佐代香 一九五五年
 - 四月二十二日 志願式
 - ◆金祝50周年◆
 - 《イエズス会》
 - 庚午修道院
 - Fr.塚田健統 一九六五年
 - 三月十八日 叙階
 - 《イエズス孝女会》
 - 松江修道院
 - Sr.マリア・カルメン・セゴビア 一九六五年五月三十一日 初請願
 - 《援助マリア修道会》
 - 福山修道院
 - Sr.曳野幸枝 一九六五年
 - 二月二十一日 着衣式
 - Sr.北村令子 一九六五年
 - 二月二十一日 着衣式
 - Sr.笹木英子 一九六五年
 - 二月二十一日 着衣式
 - ◆銀祝25周年◆
 - 《教区司祭》
 - 光・柳井教会

Fr.後藤正史 一九九〇年
三月二十一日 叙階

《カルメル会》
Sr.松本淳子 一九九〇年
十一月二十一日 初請願

《援助マリア会》
福山修道院

Sr.青木薫代 一九九〇年
三月二十四日 初請願

ワールドワイド
マリッジエンカウ
ンターウィークエンド
へのお誘い

マリッジ エンカウンター(ME)ウィークエンドとは、家庭や社会の中にある、様々な関わりを基礎となっている夫婦の関わりを深めていくための方法を体験的に身につける二泊三日のプログラムです。夫婦がお互いを、そして結婚という結びつきを新鮮な目で見直し、二人の将来を見つめるとてもよい機会です。また、自分たち二人と神との関係、自分たちと周囲の人々との関係をも深く見つめるひとときです。
夫婦だけでなく、人々との関わりを深めたいと思っっている司祭、修道者も参加できます。MEウィークエンドはカトリックの運動です。
日時:二〇一五年十月十日

広島土砂災害支援 カリタス広島災害サポートセンター 原田豊己神父



水害で流された八木園の看板

昨年8月の土砂災害から半年を過ぎました。カリタス広島災害サポートセンターは3月31日をもって解散いたしますが、今なお困難の状況にある方々を忘れません。支援金は、37,899,831円(2015年3月16日現在)に達しました。感謝申し上げます。緊急援助のため10,046,675円、復興支援として「社会福祉法人あさみなみ」再建に4,241,148円、「社会福祉法人やぎ 八木園」再建に9,422,000円(3月23日送金予定)、八木8丁目上細野自治会集会所再建に約300万円(見積もり段階)に使用させていただきました。残金11,190,008円は、広島司教区災害サポートセンターに繰り入れさせていただきます、引き続き支援要請に応じて行きますのでよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(土)二十時~二十二時(月・祝)十八時
場所:福山岬の星学院研修センター

対象:夫婦(結婚年数、信者未信者を問わない)、司祭、修道者

申し込み・お問い合わせ:富山(福山教会) 084-962-1295 高森(福山教会) 084-952-1861
私は マリッジ エンカウ

ンターに大きな期待をかけています。(聖ヨハネパウロ二世)

司祭人事異動 (新任地↑前任地)

《イエズス会》
ボニー神父
細江教会助任↑イグナチオ教会
アレックス神父

長束修道院↑サバティカル
ウィール神父

岡山教会助任↑倉敷チーム
《教区司祭》
金起煥神父
日本語研修、幟町チーム
協力↑韓国大邱教区
猪口大記神父
イタリア留学↑幟町チーム協力

2015年 5月3日(日)

10:30 聖母行列 (津和野教会~乙女峠)
12:00 野外ミサ (乙女峠)
司式者 前田万葉大司教 (大阪教区)
*司祭はアルバと赤ストラを持参

5月2日(土) 分かち合い
「列聖は37名?」「殉教者から学ぶ」
時間 19:00~
前田万葉大司教 (大阪教区)
肥塚修司 神父 (広島教区)
場所 幼花園ホール (津和野カトリック教会となり)

津和野カトリック教会
〒699-5605 島根県鹿足郡津和野町殿町
電話 0856-72-0251 FAX 0856-72-0282

津和野 乙女峠まつり

教区報100号の歴史 1986~2015

第1号~第25号 発行責任者：斎藤神父（1986~1992）
1986~1994 澤野神父（1992~1995）

- 第1号（1986年12月25日）
 - ・三末司教による教区としての三つのモットー
- 第2号（1987年4月19日）
 - ・三末司教叙階25周年
- 第4号（1987年12月25日）
 - ・第1回福音宣教推進全国会議、NICE1 in 京都
 - ・一粒会の発足に向けて号外（1988年2月7日）
 - ・福音宣教推進広島総決起大会特集
- 第5号（1988年4月3日）
 - ・野中泉神父叙階（3月21日）
- 臨時号（1988年11月13日）
 - ・カトリックセンターの建設決定
- 第7号（1988年12月11日）
 - ・「ひと粒」新コーナー開始
- 第12号（1990年4月15日）
 - ・後藤正史神父叙階（3月21日）
- 第13号（1990年8月15日）
 - ・三末司教叙階50周年
- 第14号（1990年12月25日）
 - ・青少年情報センター開設
- 第16号（1991年8月15日）
 - ・故愛宮神父の遺骨を左祭壇に納骨

- 第17号（1991年12月25日）
 - ・真珠湾50周年記念、広島・ホノルル同時ミサのための共同声明
- 第20号（1992年12月25日）
 - ・トマス小崎像完成（三原に新巡礼地）
- 第21号（1993年4月11日）
 - ・教区に宣教司牧評議会が発足
- 第22号（1993年8月15日）
 - ・日力連大会と総会が広島で開催（参加者450人）
- 第23号（1993年12月25日）
 - ・第2回福音宣教推進全国会議、NICE2開催
- 第25号（1994年8月15日）
 - ・司教館建設問題が具体化に向けて動き出す。
- 第26号（1994年12月24日）
 - ・平和年始まる
- 第27号（1995年4月10日）
 - ・大阪教区「新生」計画、阪神大地震を受けて

第26号~第50号 発行責任者：原田神父（1995~1999）
1994~2002 澤野神父（1999~2007）
編集者：山口神父（1995~2005）

- 第28号（1995年8月10日）
 - ・三末司教叙階10周年
- 第29号（1995年12月25日）
 - ・正義と平和全国大会in広島報告
- 第30号（1996年2月1日）
 - ・新広島司教館実施計画の段階へ
- 第31号（1996年4月7日）
 - ・西江和司神父叙階（3月24日）
 - ・広島教区事務所仮事務所へ移転（翠町教会）
- 第34号（1996年10月27日）
 - ・聖体奉仕者の誕生
- 第35号（1997年2月1日）
 - ・大聖年を準備するために
 - ・聖体奉仕者、集会所式について
- 第36号（1997年6月30日）
 - ・服部大介神父叙階（3月20日）
- 第37号（1997年11月末日）
 - ・広島カトリック会館落成
 - ・野口由松司教帰天（11月9日）
- 第38号（1998年4月30日）
 - ・サビエル記念聖堂献堂
 - ・一粒会再出発10年記念
 - ・広島地区センター開設
- 第41号（1999年10月1日）
 - ・サビエルの聖腕来る（サビエル渡来450年記念祭）
 - ・三教区姉妹縁組の準備、「平和の使徒」推進委員会

- 第42号（1999年12月24日）
 - ・大聖年始まる
 - ・三末司教による大聖年教書
- 第44号（2000年8月20日）
 - ・大阪教会管区大聖年平和ミサ
 - ・三教区姉妹縁組調印
- 第45号（2000年12月20日）
 - ・鳥取西部大地震の被害報告
- 第46号（2001年4月15日）
 - ・平和の使徒推進委員会を解散し、宣教司牧企画室を改め平和の使徒推進室へ
 - ・芸予地震の被害報告
- 第47号（2001年7月31日）
 - ・「どんな教区よその教区」新コーナー開始
 - ・津和野乙女峠祭50周年を迎える
- 第48号（2001年10月1日）
 - ・教皇来日20周年記念、日本司教団による平和ミサ
 - ・教皇来日20周年記念司教メッセージ
- 第49号（2002年10月1日）
 - ・教区宣教司牧評議会が船出、2002年10月に教区大会を提言
 - ・J-CaRMへの改名と説明
- 第50号（2002年4月1日）
 - ・釜山教区から司祭二人、神学生1人派遣

1986

1991

1994

1999

2002

2005

2009



第1号、1986年12月25日創刊



新しい司教館の内部を伝える、第37号



三教区姉妹縁組調印を伝える、第44号



シリーズ司祭年特集、小教区で働く司祭、第79号

- 1986年：チェルノブイリ原発事故発生 伊豆大島三原山噴火
- 1987年：国鉄分割民営化
- 1988年：瀬戸大橋開通 青函トンネル開通
- 1989年：平成元年 ベルリンの壁崩壊 消費税制度3%導入開始 中国天安門事件
- 1990年：イラク軍がクウェート制圧
- 1991年：バブル崩壊 中東湾岸戦争突入 雲仙普賢岳噴火 ソ連解体
- 1992年：自衛隊カンボジア派遣
- 1993年：Jリーグ開幕 インド大地震
- 1994年：ロサンゼルス大地震 長野県松本サリン事件

- 1995年：阪神淡路大震災 地下鉄サリン事件
- 1996年：原爆ドーム世界遺産になる
- 1997年：消費税5%引上げ
- 1998年：冬季オリンピック長野大会
- 1999年：トルコ大地震 台湾中部大地震
- 2000年：伊豆三宅島噴火
- 2001年：米国同時多発テロ発生
- 2002年：北朝鮮拉致被害者5人帰国
- ユーロ圏12ヶ国で欧州単一通貨ユーロが流通開始
- 東ティモールへ自衛隊派遣
- 田中耕一、小柴教授がノーベル賞受賞

- 2003年：米英軍イラク・バグダッド爆撃開始 日本郵政公社営業開始
- 2004年：新潟中越地震 スマトラ沖地震 イラクへ自衛隊派遣
- 2005年：パキスタン北東部大地震
- 2006年：ジャワ島大地震
- 2007年：参院選で自民党歴史的惨敗
- 2008年：中国四川省大地震
- 2009年：衆院選で民主党圧勝 裁判員裁判開始 オバマ米国大統領就任

第76号~第100号 発行責任者：服部神父（2011~）
2009~2015

- 第77号（2009年7月19日）
 - ・広島教区昇格50周年（教区発展図、教区の略歴）
 - ・蒜山司祭研修会「司祭年にあたり」
 - ・白柳枢機卿帰天
 - ・司祭年特集（小教区で働く司祭：岡山・鳥取地区）
 - ・司祭年特集（小教区で働く司祭：広島地区）
 - 特別号（2010年6月6日）
 - ・三末司教叙階25周年記念特集号
 - 第81号（2010年8月1日）
 - ・三末司教着座25周年記念行事報告
 - ・司祭年特集（小教区で働く司祭：山口・島根地区）
 - 第82号（2010年11月7日）
 - ・教区代表者会議の開催要項など
 - 第83号（2011年1月23日）
 - ・教区代表者会議の報告
 - ・海峡の風新春特別インタビュー
 - 第84号（2011年4月24日）
 - ・これよりカラーになる
 - ・教区のテーマ決定（教区宣教司牧評議会12月から）
 - 第85号（2011年7月31日）
 - ・広島司教に新司教任命、前田万葉司教
 - ・前田万葉司教叙階式特集
 - 第88号（2012年4月8日）
 - ・世界平和記念聖堂保存活用員会報告始まる
 - ・NWM in 世界平和記念聖堂
 - 第89号（2012年7月29日）
 - ・冊子「平和の使徒になあーれ」ガ

- ・イドラインの説明
- 第90号（2012年10月28日）
 - ・信仰年について、シンボルマークなど
 - ・愛宮ラサール記念館オープン
 - ・長谷川神父帰天（2012年9月13日）
- 第91号（2013年1月20日）
 - ・野間神父帰天（2012年12月8日）
- 第92号（2013年4月14日）
 - ・新教皇フランシスコ誕生
 - ・トゥアン神父叙階（3月20日）
- 第93号（2013年7月28日）
 - ・教区創立90周年、列聖運動開始
- 第94号（2013年10月27日）
 - ・信仰年閉幕行事の案内
 - ・世界平和記念聖堂耐震調査着手
- 第95号（2014年1月19日）
 - ・「教会ガイドブック」完成
 - ・早副神父帰天（2013年11月8日）
- 第96号（2014年4月20日）
 - ・猪口大記神父叙階（3月21日）
 - ・教区創立100周年に向けての標語決定「チャレンジ 新しい福音宣教」
- 第97号（2014年7月27日）
 - ・予備神学校開校
 - ・教区の平和年始まる
- 第98号（2014年10月26日）
 - ・前田大司教大阪の大司教に、肥塚神父が教区管理者
 - ・列聖運動の動き
 - ・広島土砂災害支援
- 第99号（2015年1月18日）
 - ・司教座空位の今、教区が取り組む課題「平和年」「津和野殉教者列聖運動」「家庭へのチャレンジ」
- 第100号（2015年4月5日）
 - ・第100号特集

2012

2015

日本・世界の主なできごと

- 2010年：チリ鉱山事故生存者救出
- 2011年：東日本大震災と東電福島第1原発事故
- 2012年：東京スカイツリー開業 山中教授がノーベル賞受賞
- 2013年：富士山世界文化遺産になる
- 2014年：御嶽山噴火 広島市北部土砂災害

地区便り

山口島根地区

＊宇部・小野田ブロック典礼 奉仕者研修会

一月二十四日(土)に、宇部教会において「宇部・小野田ブロック典礼奉仕者研修会」を行い、司祭不在による集会祭儀、臨時の聖体奉仕について学んだ。片柳神父、シスター三名、三教会信徒二十二名が参加した。

＊平和アピール1981の集い

二月二十二日(日)にサビエル高校にて、聖パウロ・ヨハネ二世教皇の来広を記念した集いを開催。初めに、バツタンバン友の会でカンボジアツアーに参加したサビエル高校生徒二名の体験報告とカンガス神父様の報告があった。その後、広島教区正義と平和



後藤神父、自筆の書を用いての講演

協議会担当で光教会主任の後藤神父が「平和の使徒となろう」と題して講演された。午後からは分かち合いとミサが行われた。

＊地区養成

四月から十月にかけて、山口ブロックで百瀬神父による「信徒の神学(全六回)」が山口教会にて開催される。林神父による「社会教説学習会」の各小教区日程については、それぞれ通知済み。七月十八日(土)～十九日(日)には、下関労働教育センターにおいて宿泊研修が行われる。

＊地区全体への呼びかけ

「奉献生活の年」を記念して、八月三十一日(月)に菅原神父(イエズス会)の講演会を山口教会で開催する。十月十八日(日、世界宣教の日)には、「地区大会」が開催される予定。

岡山鳥取地区

＊二〇一四年度第三回地区財務委員会及び、地区宣教司牧評議会が二〇一五年二月十一日に開催

地区宣教司牧評議会では、各推進チーム・各グループ代表により活動報告があった。



平和を訴えるモタズさん

年の聖週間では隠岐島で初めてとなる「聖なる三日間」の典礼が行われる予定。
＊平和推進チーム
二月十一日、講演「現代の殉教」戸田帯刀教区長射殺事件が問いかけるもの」がプロテストメントとカトリックの共催で行われた。戸田神父様は戦後三日目に司教館玄関で憲兵によって射殺。札幌教区長時代にも「国体観念希薄」として入獄。国家主義に巻き込まれた教会の中で、神への忠誠と高位聖職者の苦悩を一身に負いそして殉教した。秘密保護法が施行された現在、学ぶことは多い。昭和十九年十月九日横浜教区長着座式で、頭を丸坊主にしての決意の言葉、「私は自分の生命をかけて、日本のため、また世界平和のために働きます」

広島地区

＊平和アピール1981報告

テーマ:「聖地パレスチナは今」平和への道を歩むために
ヴィタリ神父様は「教会は聖地を忘れない。忘れたらイエス・キリストを忘れる」と語られました。けれども昨今の風潮の中、私たちも無関心や偏見を身につけてきている

伯耆ブロック

＊二〇一五年度予定

- 二〇一五年 ()内は、担当教会
・四月十二日 教区平和年特別ミサ(米子)
・五月三日 津和野乙女峠巡礼(三教会合同)
・八月十日～十二日 教区練成会(米子) 小学生などが



岡山鳥取地区財務委員会の様子

休憩後より、三グループに分かれ、「教区の優先課題を信徒さん一人ひとりと分かち合うために」をテーマに、特に予備神学校の報告をもとに分かち合いが行われた。

＊きょうどう推進チーム

地区内での滞日外国人の司牧は、この一年で大きな変化があった。トゥアン神父様が関わってくださることに伴い、現在、ベトナム語のミサが岡山教会で定期的(月一回)に行われるようになり、岡山にいるベトナム人が教会に集まりやすくなった。また、リカルド神父様が司牧活動を広げられたことにより、広範囲のフィリピン人と関わりを持つようになった。最近では、月に一度、隠岐島に出張され、山陰におけるフィリピン人の大きな希望となっている。今

参加

- ・九月十三日 ブロック勉強会(松江) テーマ:「典礼について」講師:具正護神父
- ・十一月三日 米子教会八十年、境港教会五十周年祝賀会(米子)
- ・十一月二十三日 永井隆博士追悼平和祈念ミサ(松江) 雲南市三刀屋町永井記念館長崎純心聖母会のシスターによる講演
- 二〇一六年
・一月十日 新年研修会(松江)
- その他
・隠岐島への巡回司牧を年間を通して行います。
・滞在外国人共同黙想会を待降節中に行います。
・ブロック協議会を四回(四月二十六日、六月二十八日、十月十八日、二月二十八日)行います。
・司祭交代(三教会相互)を待降節中十二月六日と四旬節中三月六日に行います。

教会スタンプラリー完了

認定証番号第0007号 丸山 秀子さん (岡山教会)
認定証番号第0008号 野中 泉 神父 (倉敷教会)

海峡からの風 36

下関労働教育センターだより

平和を実現する人

「過去に目を閉ざす者は、現在にも盲目となる」と演説したワイツゼッカー元ドイツ大統領が亡くなった。

世界大戦後のドイツと日本の安易な比較はいただけませんが、過去に目を閉ざすどころか、過去を自分の都合に合わせて改竄し、現在においても放射能汚染水の海洋への垂れ流しを長く口を閉ざしていた様に不都合な真実は「秘密保護」し、憲法すら都合の良い具合に解釈・ルール変更をして行く、そんな人間たちが戦後七十年談話を発表しようとしている国が目の前にある。

教皇ヨハネ・パウロ二世が広島で述べた「過去をふり返ることは将来に対する責任を担うこと」とかけ離れた彼らの言う「未来志向」は、先日司教団が発表した

戦後七十年メッセージの「今こそ武力によらない平和を」ともかけ離れ、「自衛権」のための軍備増強、民意や生活を脅かす新基地の建設、武器輸出の解禁にその片鱗が見え、不安を覚えさせる。

「平和への道を歩もうではありませんか。その道こそが、人間の尊厳を尊厳たらしめるもの」である。報復や言葉も含めた暴力の連鎖を拒むことがそれに苦しむ人に寄り添い、「平和を実現する人」たる第一歩であろう。

お知らせ。四月から援助修道会のシスター山本紀久代が下関労働教育センターで働くことになり希望がふくらみます。広島教区での、東北被災地での働き、そして彼女自身のタレントが、センターにとって、また広島教区にとつて豊かな恵みをもたらしてくれることでしょう。お祈りください。(大城研司)

広島教区の施設 25 学校法人 光塩学園 廿日市聖母マリア幼稚園

廿日市聖母マリア幼稚園は世界遺産、厳島神社(宮島)の対岸、廿日市市にあります。教育の理念は、聖書の中の「あなたたちは世の光、地の塩である」の言葉から、メルセス会創立者マドレマルガリタの建学の精神を元としています。

「光の子」とは、明るく、暖かい、思いやりのある情緒豊かな感謝の心をもつ子ども。「塩の子」とは、自分で考え、良心に基づいて行動できる意志の強い子どものことです。更に、腰骨を立てて座る立腰教育を取り入れ、物事に対し正しい姿勢で、集中力や根気力、持続力がつくよう取り組んでいます。また、躰の三原則と云われる、一、挨拶は自分から先にする(積極性) 二、ハイと短い返事をする(素直な心) 三、履物を揃える(活動のけじめをつける、自主性)を育みます。

二〇一三年二月に全園舎(三棟)の耐震建替新築工事を終え、現在三学年四クラス約四百十人を越える園児が通っています。その中心となるメルセス棟



マリア祭で踊りを披露する園児たち

青少年の活動

広島地区青年 尹助祭との交流会

二月十四日(土)ソウルにて助祭に叙階(二月五日叙階)された尹兌榮助祭とこのたび広島教区で司牧されることとなった韓国大邱大司教区出身の金起煥神父を囲んで広島地区の青年たちによる交流会が、幟町教会マリアホールで行われた。



交流会に集まった青年たち、中央に尹新助祭

毎月第二土曜日に開催さ

れる広島地区青年定例会と尹助祭の一時帰国が重なり、十名前後の青年が新助祭と共に食卓を囲み、叙階の喜びを分かち合った。尹助祭は、今年の夏まで

ソウルの神学校で生活し、それ以降は広島教区内で奉仕する予定となっている。青年たちと共に尹助祭の司祭叙階のためにお祈りしましょう。

(大西勇史助祭)

ロイ神学生、 祭壇奉仕者に

二月十五日(日)幟町教会のミサ(肥塚神父司式)の中でベトナム出身のロイ神学生(神学科三年生)の祭壇奉仕者選任式が行われた。また、先日ソウルで助



右、尹新助祭
左、会衆に向かって挨拶をするロイ神学生

祭に叙階された尹新助祭の助祭としての初めての挨拶が行われた。

「すべての人に すべてとなつて」



米子教会 荻喜代治神父

私は若くして司祭叙階され、すでに三十七年が過ぎようとしています。この間、廿日市・観音町・福山・三次・松江・玉野・岡山南・岡山・米子と岡山教会を除いて、

ほとんど小さな教会を回ってきました。小さな教会で、子ども、若者、高齢者、病者、外国人たちを大切に歩んで来たつもりです。一人ひとりとの出会いを大切に、家庭訪問もし、最初は小さな群れでしたが段々と人数が増えてきます。

外国語は得意ではありませんが、ブラジルやペルー

の方々が来られれば、読み方だけ練習してポルトガル語、スペイン語そして英語ミサもしました。ベトナム語だけはどうしても無理でした。

〈召命について〉

二期にわたる長い間、司祭養成担当をしてきました。神学生、若い司祭たちの中には日本だけではなく、ベトナム・韓国・コン

ゴ民主共和国・フィリピン・インドネシアの人たちがいます。私もそうでしたが、若い時期は色々とお悩む

ものです。お互いに助け合いながら、神学生、司祭として楽しんで行きたいと思っています。

〈若者の養成〉

将来の教会を考えると、子どもや若者たちの養成は大切です。英語ミサと一緒に来るフィリピンの子どもたちの信仰養成も大切です。

六十代にはなりましたが、いつも子どもたちと楽しく遊び、楽しい教会へと成長できればと思っています。

風紋

長崎で行われた「日本の信徒発見百五十周年記念行事」に参加してきました。日本の全教区から代表者が招待されたり、数日後にアドリミナのためにローマに出発される日本の司教様方も全員記念ミサに参加され、日本の教会全体としての大切な出来事であることに改めて感じるようになりました。広島教区報百号の記念に当たり、日本の教会の再出発となった大きな力を感じて、新たに歩みを刻んでゆきたいと思えます。

(にん)



〈84〉



信徒発見百五十周年記念ミサの様子
場所は、大浦天主堂(長崎)